

審査員講評

高校生を中心に 600 点近い応募があったことは、若い世代が自分たちの将来や、10 年、20 年先に自分が岩手のために何ができるのかを真剣に考えたことの現われであると感じている。

入賞した作品には、岩手に対する暖かい目がある一方で、岩手を取巻いている問題を捉えたうえで、未来への道しるべが示されたものも多く、「岩手の希望」に繋がるものと感じた。ただ、若さあふれる斬新な提案をもう少し見たかった。

これまでしてきたことを振り返り、文章にすることが簡単だが、先行きが不透明な今の時代だからこそ、将来について考えていくことは非常に大事である。これを次の行動につなげていけるよう頑張ってもらいたい。

審査委員（五十音順・敬称略）

審査委員長：高 嶋 裕 一（岩手県立大学総合政策部准教授）

副委員長：松 田 十 刻（作家）

一 戸 彦太郎（岩手日報社学芸部長）

菅 野 初（岩手県高等学校教育研究会国語部会長）

菊 地 弘 樹（岩手県総合計画審議会委員）

ふ じ ポ ン（タレント）

中 村 一 郎（岩手県総合政策部副部長）